

保健体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力等)

(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

第1学年及び第2学年 目標

[体育分野]

(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

[保健分野]

(1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

(3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

指導時期	単元名・教材名	配当 時数	教材目標	学習活動	学習指導要領 との対応	評価規準	小学校との 関連	重点
4月	A.体づくり運動	7	<p>(1) 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせること。</p> <p>ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わること。</p> <p>イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせること。</p> <p>(2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>	<p>体ほぐしの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークによる他者や道具、自己との対話を通じた気づきを育む ・ゲーム性の面白さを味わう <p>体の動きを高める運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の柔らかさを高める運動 ・巧みな動きを高める運動 ・力強い動きを高める運動 ・動きを持続する能力を高める運動 <p>このなかから、学級の実態や発達段階等を踏まえてねらいを選定し、実施する。</p>		<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の意義について、言ったり書き出したりしている。 ・「体ほぐしの運動」には、「心と体の関係や心身の状態に気付き」、「仲間と積極的に関わろう」というねらいに応じた行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・体の動きを高めるには、安全で合理的に高める行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。 <p>※「体づくり運動」の体ほぐしの運動は、技能の習得・向上をねらいとするものでないこと、体の動きを高める運動は、ねらいに応じて運動を行うことが主な目的となることから、「技能」の評価規準は設定しない。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動で、「心と体の関係や心身の状 	<p>系統性の確保</p> <p>小学校では基礎的な体力や運動能力を育成することを目的としており、中学校ではそれを発展させ、具体的な運動技能や健康保持増進の実践力を養う。</p> <p>体育と保健との関連</p> <p>中学校では保健分野との関連性が強調され、健康</p>	<p>自他の気づきを育むこと、それを活動の中で交流させること。</p> <p>対面で行う学校教育活動の中でも関わりを最も求める活動の一つであることにこだわって授業を展開する。</p>

						<p>態に気付く」、「仲間と積極的に関わり合う」ことを踏まえてねらいに応じた運動を選んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、仲間との関わり方を見付けている。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・ねらいに応じた行い方などについての話合いに参加しようとしている。 ・健康・安全に留意している。 	<p>管理や疾病予防といった内容が体づくり運動と結び付けられている。</p>	
5月	C.陸上競技	10	<p>(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けること。</p> <p>ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡してタイミングを合わせること、長距離走では、ペースを守って走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。</p> <p>イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。</p> <p>(2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>	<p>短距離走・リレー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランニングとスプリントの違い ・スタートダッシュ(クラウチングスタート) ・中間疾走 ・バトンパス ・条件を変えたリレーゲーム <p>走り高跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助走の取り方 ・踏切 ・クリアランス 		<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の各種目において用いられる技術の名称があり、それぞれの技術で動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 <p>○技能</p> <p><u>短距離走・リレー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己に合ったピッチとストライドで速く走ることができる。 ・リレーでは、次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせることができる。 <p><u>走り高跳び</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルな助走から力強い踏み切りに移ることができる。 ・脚と腕のタイミングを合わせて踏み切り、大きなはさみ動作で跳ぶことができる。 <p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとしている。 	<p>「運動あそび」「走・跳の運動」「陸上運動」から、中学校では「陸上競技」に発展する。小学校段階で培った運動の楽しさを発展させ、記録の向上やよりよい運動の仕方に焦点化した授業展開を行う。</p>	<p>「競技」とあることから他者との競走や自己記録の追求を楽しむようにする。それに加え、自らの技能として発揮できない生徒でも他者の運動に対して思考したことを伝えられるような場面設定を行う。</p>
6月	D.水泳 (着衣泳について)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解できるようにする。 ・水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど、健康安全に気を配ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳の特性と成り立ち ・技術の名称や行い方 ・安全指導 	<p>水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場</p>	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、着衣泳の際の重要事項などを理解している。 	<p>※実施状況を踏まえた系統的な指導</p>	

					合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。また、保健分野の応急手当との関連を図ること。	○主体的に学習に取り組む態度 水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど、健康安全に気を配ることができる。		
	E.球技 (ベースボール型)	10	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>Baseball5でルールに親しみ、 ・効果的な走塁などによる攻撃 ・ダブルプレーなど連携した守備 これらによって得点を巡る攻防を行う。</p> <p>※道具の状況に応じて、屋外でのソフトボールなど種目を変更して実施する。</p>		<p>○知識 ・球技の特性や成り立、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>○技能 ・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。</p> <p>○思考・判断・表現 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度 ・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりしている。</p>	「ボールゲーム」「ベースボール型ゲーム」「ボール運動」と発展していき、基本技能やルールを小学校段階で習得するため、中学校では戦術理解に重点を置いた指導を行う。	打つ・捕る・投げるを連携させた技能を身につけ、走者がいるケースの攻撃・守備におけるそれぞれの作戦を考えると
7月 8月	B.器械運動	11	<p>(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うこと。</p> <p>ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。</p> <p>エ 跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。</p> <p>(2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者</p>	<p>マット運動～跳び箱運動へ発展 ・マット運動(ほん転技群や跳ね起きを中心に扱う) ・跳び箱運動(ロールマットやステージからの落ち込みを使ってスモールステップで跳び箱に移行していく)</p>		<p>○知識 ・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>○技能 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができる。</p> <p>・跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や</p>	「器械・器具を使っている運動遊び」「器械運動」へと発展し、中学校段階では運動を楽しむことから、「挑戦」「達成感」がある活動へと発展させる。	“技ができる喜び”が苦手意識のある生徒でも実感できるように、個人内だけでなく、集団演技やグループ活動などを取り入れ、他者との関係性の中で

			に伝えること。 (3) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。			発展技を行うことができる。 ○思考・判断・表現 ・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。		感じられるよう授業づくりを工夫する。
9月	G.ダンス	8	(1) 次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすること。 ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。 ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせて、リズムに乗って全身で踊ること。 (2) 表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 (3) ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。	・現代的なリズムを使った創作的な身体表現 ・ステップを選択して、構成やアレンジを加えて表現する		○知識 ・ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しむことや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 ・ダンスは、様々な文化の影響を受け発展してきたことについて、言ったり書き出したりしている。 ・それぞれのダンスには、表現の仕方に違いがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ・創作ダンス 身近な生活や日常動作(スポーツ、働く人など)といった、一番表したい場面や動きを、スローモーションの動きで誇張したり、繰り返したり、変化や連続の動きを組み合わせて表現することができる。 ・現代的なリズムのダンス 軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてずらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。 ○思考・判断・表現 ・提示された事例を参考に、自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。 ・提供されたテーマや表現の仕方から、自己やグループの課題や出来映えを伝えている。 ・課題に応じた練習方法を選んでいる。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・ダンスの学習に積極的に取り組もうとしてい	「表現リズム遊び」「表現運動」から「ダンス」へ発展する。 小学校段階では、リズムの感覚を中心に基本技能を培い、リズムやダンスを通して文化に触れることを重視する。それを基に中学校では、自らのアイデアや感じたことを表現に生かすなど培った基礎的な動きを発展させた表現につなげる。	ダンスは、学級集団の関係性などが影響し精神的なブレーキがかかりやすい单元である。 それ故に即興性をキーワードに、即興で体を動かし表現するアイスブレイクを行うことで“即興で行ったことに間違いや失敗はない”ということを伝え、動きながら豊かにアイデアを出し合い活動できる環境づくりを最重点に置く。

						る。 ・仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ・即興的に体を動かそうとしている。		
10 月 11 月	E.球技(ゴール型)	12	(1)次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。	バスケットボール ・ボール操作技能を高める運動 ・空間を作る、空間に走り込むなどの動きを抽出したゲーム		○知識 ・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、言ったり書き出したりしている。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュート、マークされていない味方にパス、得点しやすい空間にいる味方にパス、ボールをキープできるなどのボール操作ができる。 ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・ボールを持っている相手をマークすることができる。 ○思考・判断・表現 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ・練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。	「ボールゲーム」「ゴール型ゲーム」「ボール運動」から発展し、中学校では「ゴール型球技」として扱う。小学校段階では、基本技能や名称だけでなく、ボール運動の楽しさを味わい、ゲームで役割を果たす達成感を味わったり勝敗を公平に受け止めるフェアプレイの精神を身につける。中学校段階では、連携した動きによって空間を作る・埋めるなどの攻防ができるようになる。	連携した動きと、流動的に現れては消える空間を主課題とし、空間を見つけること、そこに走り込むこと、空間を作り出したり相手の空間を埋めたりする動きができることを身につけさせる。
11 月 12 月	F.武道(柔道)	10	(1)次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開すること。 ア柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本とな	柔道授業にあたってオリエンテーション ・所作(道着の着方、左座右起、黙想など) ・基本動作(回転運動、受け身)		○知識 ・武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能	中学校から武道が必修になるため、小学校では体づくり運動や運動遊びの一環とし	安全指導を第一優先に行い、到達度に応じて立ち技の攻防などに学習

			<p>る技,連絡技を用いて,相手を崩して投げたり,抑えたりするなどの攻防をすること。</p> <p>(2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し,合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに,自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 武道に自主的に取り組むとともに,相手を尊重し,伝統的な行動の仕方を大切にしようとする,自己の責任を果たそうとすること,一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや,健康・安全を確保すること。</p>	<p>・立ち技による攻防 (支え釣り込み足,大腰)</p>		<p>・相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて,投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすることができる。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に,仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>・提供された練習方法から,自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・相手を尊重し,伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。</p> <p>・用具等の準備や後片付け,審判などの分担した役割を果たそうとしている。</p> <p>・禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。</p>	<p>て,簡単な武道的な動きを取り入れることもできる。</p> <p>高校への接続としては,中学校段階での基本動作の習得が求められる。</p>	<p>を深めていく。</p>
12月1月	E.球技(ネット型)	12	<p>(1)次の運動について,勝敗を競う楽しさや喜びを味わい,技術の名称や行い方,体力の高め方,運動観察の方法などを理解するとともに,作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>イ ネット型では,ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し,合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに,自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 球技に自主的に取り組むとともに,フェアなプレイを大切にしようとする,作戦などについての話し合いに貢献しようとする,一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする,互いに助け合い教え合おうとすることなどや,健康・安全を確保すること。</p>	<p>バレーボール 空いた場所を巡る「落とす」ゲーム</p>		<p>○知識</p> <p>・球技には,集団対集団,個人対個人で攻防を展開し,勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて,言ったり書き出したりしている。</p> <p>○技能</p> <p>・相手側のコートの空いた場所にボールを返すことができる。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に,仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>・提供された練習方法から,自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>・学習した安全上の留意点を,他の学習場面に当てはめ,仲間に伝えている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして,フェアなプレイを守ろうとしている。</p>	<p>空いた場所に落とすことのできる攻撃が十分に身につく,ゲームが展開できるとそれを防ぐ守備の重要性に気付くことができ攻防が成立するため,特定の技能の習得ではなく空いた場所を巡る攻防を主課題に扱う。</p>	
2月3月	カーリング	7	<p>自然との関わりの深いスキー,スケートや水辺活動などの指導については,学校や地域の実態に応じて積極的に行うことに留意するものとする。</p>	<p>オリエンテーション デリバリー,スイープについて 実態に応じたゲーム</p>		<p>○知識</p> <p>・カーリングのルールや,スイープによってストーンをコントロールする方法,授業で学習した作戦などについて,ゲームの中で発言することができる。</p> <p>○技能</p> <p>・ストーンの置く位置(強弱)をコントロールすることができる。</p>	<p>学習指導要領に明記されていないが,稚内市内でも高学年からカーリング授業を行う学校が増え,高校まで授業で行われてい</p>	<p>ゴルフなどと同様のターゲット型球技かつ,集団球技であることが特筆すべき競技特性で,話し合いで局面を解決し</p>

						<ul style="list-style-type: none"> ・スweepによって,ストーンをコントロールすることができる。 ○思考・判断・表現 ・ゲームの場面で,最善を尽くす,フェアなプレイなどのよい取組を見付け,理由を添えて他者に伝えている。 ・自分や仲間がプレイする場面で,ストーンの置く位置について,状況に合わせた選択をしたり伝えたりしている。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・カーリングに積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして,フェアなプレイを守ろうとしている。 	<p>る。</p> <p>中学校段階では競技のルールに親しむを通して,ターゲット型球技であるカーリングの魅力や種目特性を味わえるようにする。</p>	<p>ていくことを重点とする。</p>
I学期	保健編I章 健康な生活と病気の予防①	I	<ul style="list-style-type: none"> ・病気や健康にはどんなことが関わっているか理解する。 ・自分にとって健康とは何かについて考える。 	1 健康の成り立ち		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・健康は,主体と環境の関わりの中で成り立っていることを理解している。 ・健康を保持増進するためには,個人の行動や環境を健康的なものにするとともに,その実現を可能にする社会の取り組みが必要であることを理解している。 ○思考・判断・表現 ・自分にとって健康とはどのようなことか考えたり話し合ったりしている。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・自分の健康に関心を持ち,健康について考えようとしている。 		
		I	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の効果と,健康づくりのための運動の行い方について理解する。 ・生活の中に運動を取り入れるためにできることについて考える。 	2 運動と健康		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・適度な運動には,体の各器官を発達させるとともに,精神的にもよい効果があることを理解している。 ・健康のためには,日常生活において適切な運動をすることが必要であることを理解している。 ○思考・判断・表現 ・学習したことを踏まえて,自分に適した運動を計画している。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・生活の中に運動を取り入れるなどの改善に,意欲的に取り組もうとしている。 		
		I	<ul style="list-style-type: none"> ・健康のために食生活で気を付けるべきことについて理解する。 ・食生活に問題点があるかどうかについて考える。 	3 食生活と健康		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・健康のためには,日常の運動に見合った食事や規則正しい食生活が大切であることを理解している。 		

						<p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事と日常の運動との関係, 規則正しい食生活を踏まえて, 自分の食生活の問題点と改善方法を考えているとともに, それらを表現している。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活に関心を持ち, 健康のために, バランスのよい食生活になるよう, 改善を図ろうとしている。 		
		I	<ul style="list-style-type: none"> ・健康のために休養・睡眠をどのようにとればよいか理解する。 ・休養・睡眠のとり方の工夫を考える。 	4休養・睡眠と健康		<p>○知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間の学習, 運動, 作業は疲労をもたらすこと, 疲労の現れ方は条件や個人などによって違うことを理解している。 ・健康のためには, 休養・睡眠を適切にとることが必要であることを理解している。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の生活が疲労やストレスが起りやすいものであることに気づき, 疲労と健康の関係に関心を持って学習に取り組もうとしている。 ・休養に留意した生活を送ろうとしている。 		
		I	<ul style="list-style-type: none"> ・運動, 食事, 休養・睡眠の調和のとれた生活を続けるにはどんな生活をする必要があるかを理解する。 ・運動, 食事, 休養・睡眠の調和のとれた生活とそれを続ける工夫について考える。 	5調和のとれた生活		<p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康を保持増進するためには, 年齢, 生活環境に応じた適切な運動, 食事, 休養・睡眠の調和のとれた生活が大切であることを確かめている。 ・自分の生活を振り返り, よい点や改善すべき点を考えたり見つけたりしている。 ・調和のとれた生活を続ける工夫を考えているとともに, それらを他者に伝えている。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活の改善に, 意欲的に取り組もうとしている。 		
2学期	保健編4章:健康な生活と疾病の予防②	I	<ul style="list-style-type: none"> ・体の各器官はどのように発育・発達するか理解する。 ・望ましい発育・発達のためにどんなことに気を付けたらよいか考える。 	1体の発育・発達		<p>○知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期は, 身長や体重が急速に発育する時期(発育急進期)に当たることを理解している。 ・体の各器官は, 年齢とともに発育・発達するが, その時期や程度には個人差があること, 各器官によっても違いがあることを理解している。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい発育・発達のためにどんな生活を送ったらよいかを考え, 生活の実践への意欲を持っている。 		

		1	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器・循環器はどのように発達するか理解する。 ・呼吸器・循環器の発達における運動の役割について考える。 	2呼吸器・循環器の発達		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・呼吸器・循環器の仕組みを知るとともに、年齢に伴って発達すること、その発達は呼吸数や肺活量、脈拍数などで知ることができることを理解している。 ・呼吸器・循環器の機能を発達させるには、持久力を高める運動が効果的であることを理解している。 ○思考・判断・表現 ・学習したことを基に、自分に適した運動について考えているとともに、それらを他者に伝えている。 		
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の体の変化や、月経、射精、妊娠は、どんな仕組みで起こるか理解する。 ・月経や射精の仕組みとその意味について考える。 	3生殖機能の成熟		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・思春期には、性ホルモンの働きによって生殖機能が成熟し、排卵や月経、射精が起こることとその仕組みを理解している。 ・受精や妊娠の仕組みについて理解している。 ○思考・判断・表現 ・排卵や月経、射精が起こるようになることの意味について考えているとともに、それらを他者に伝えている。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・思春期の体の変化について、自分自身の問題として捉えようとしている。 		
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期における性意識の変化と、性に関する適切な態度や行動について理解する。 ・性情報への対処について考える。 	4性どう向き合うか		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・思春期の性意識の変化について理解している。 ○思考・判断・表現 ・自分自身の性や心の変化を見つめるとともに、他者との望ましい関係について考えている。 ・性情報にどう対処すべきかについて考えているとともに、それらを他者に伝えている。 		
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・心と大脳の関係、知的機能・情意機能の発達の仕方について理解する。 ・知的機能・情意機能の発達にはそれぞれ何が影響するか、具体例を挙げて考える。 	5心の発達(1) 知的機能と情意機能の発達		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・心の働きは大脳で営まれることについて理解している。 ・心の働きには知的機能や情意機能があり、さまざまな経験や学習によって発達することを理解している。 ○思考・判断・表現 ・自分の生活経験が、心の発達にどのように関係しているかについて考えているとともに、それらを他者に伝えている。 		

		1	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性の発達の方法について理解する。 ・人とのコミュニケーションについて、実習を通して考える。 	6 心の発達(2) 社会性の発達		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・社会性は、人間関係におけるさまざまな経験によって発達することを理解している。 ○思考・判断・表現 ・人とのコミュニケーションについて、実習を通して考えているとともに、それらを表現している。 		
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を見つめることの意味、どのように自己形成がなされるかについて理解する。 ・自己形成について、自分の体験を基に考える。 	7 自己形成		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・思春期には自己形成がなされること、自己形成はどのようになされるかについて理解している。 ○思考・判断・表現 ・自己形成について、自分の経験や知識、友達の意見などを基に考えているとともに、それらを表現している。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・自分自身を客観的に捉える課題に自主的に取り組んでいる。 		
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の関わりについて理解する。 ・欲求不満やストレスへの対処について理解する。 ・リラクセーションの方法を実習を通して身に付ける。 	8 欲求不満やストレスへの対処		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・心と体が密接に関係していること、心の健康を保つためには心身の調和を保つことが必要であることを理解している。 ・欲求不満やストレスへの対処について理解している。 ・ストレスへの対処にはさまざまな方法があることを理解している。 ・リラクセーションの方法を理解するとともに、呼吸法などの技能を身に付けている。 ○思考・判断・表現 ・自分に合ったストレスへの対処について考えているとともに、それらを他者に伝えている。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・欲求不満やストレスへの対処について、実生活に結び付けて考え、実践への意欲を持っている。 		
3学期	H.体育理論 体育編1章 スポーツの多様性	1	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの始まりや発展について理解する。 ・スポーツの楽しさや必要性について考える。 	1スポーツの始まりと発展		<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ・スポーツはどのようにして生まれ、発展してきたのかについて理解している。 ・スポーツは時代や社会背景によって捉え方が変わり、現在ではそれらに親しむことが基本的な権利として捉えられていることを理解している。 ○思考・判断・表現 ・スポーツの必要性や楽しさについて、自分自身 		

						<p>の生活を振り返りながら考えているとともに、それらを表現している。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・スポーツの必要性や楽しさに関心を持ち、進んでスポーツに親しもうとしている。</p>		
		<p>・スポーツへのさまざまな関わり方について理解する。</p> <p>・スポーツへのこれからの関わり方について考える。</p>	2スポーツへの多様な関わり方		<p>○知識・技能</p> <p>・スポーツには「行うこと」「見ること」「支えること」「知ること」といったさまざまな関わり方があることを知るとともに、それぞれの関わり方の特徴や楽しさを理解している。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>・自分がスポーツにどのように関わっているか、今後どのように関わっていきたいかについて考えたり話し合ったりしている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・今後、スポーツに関わっていくことについて、実践への意欲を持っている。</p>			
		<p>・スポーツには、さまざまな楽しみ方や楽しむための工夫があることについて理解する。</p> <p>・具体的な場面を想定してスポーツの多様な楽しみ方について考える。</p>	3スポーツの多様な楽しみ方		<p>○知識・技能</p> <p>・運動やスポーツを生涯にわたって楽しむには、世代や機会に応じて、自分に合った運動や多様な楽しみ方を見つけたり工夫したりすることが大切であることを理解している。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>・世代や機会に応じたスポーツの楽しみ方について、さまざまな工夫を考えたり話し合ったりしている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・スポーツの多様な楽しみ方に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。</p>			

2026年度 2年 保健体育科 年間指導計画

保健体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力等)

(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

第1学年及び第2学年 目標

(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

指導時期	単元名・教材名	配当 時数	教材目標	学習活動	学習指導要領 との対応	評価規準	小学校との 関連	重点
4月	A.体づくり運動	7	<p>(1) 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせること。</p> <p>ア体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うこと。</p> <p>イ体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせること。</p> <p>(2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>	<p>体ほぐしの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークによる他者や道具、自己との対話を通じた気づきを育む ・ゲーム性の面白さを味わう <p>体の動きを高める運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の柔らかさを高める運動 ・巧みな動きを高める運動 ・力強い動きを高める運動 ・動きを持続する能力を高める運動 <p>このなかから、学級の実態や発達段階等を踏まえてねらいを選定し、実施する。</p>		<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の意義について、言ったり書き出したりしている。 ・「体ほぐしの運動」には、「心と体の関係や心身の状態に気付き」、「仲間と積極的に関わり合う」というねらいに応じた行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・体の動きを高めるには、安全で合理的に高める行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。 <p>※「体づくり運動」の体ほぐしの運動は、技能の習得・向上をねらいとするものでないこと、体の動きを高める運動は、ねらいに応じて運動を行うことが主な目的となることから、「技能」の評価規準は設定しない。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動で、「心と体の関係や心身の状態に気付き」、「仲間と積極的に関わり合う」ことを踏まえてねらいに応じた運動を選んでいる。 ・学習した留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方当てはめ、仲間との関わり方を見付けている。 	<p>系統性の確保</p> <p>小学校では基礎的な体力や運動能力を育成することを目的としており、中学校ではそれを発展させ、具体的な運動技能や健康保持増進の実践力を養う。</p> <p>体育と保健との関連</p> <p>中学校では保健分野との関連性が強調され、健康管理や疾病予防といった内容が体づくり運動と結び付けられている。</p>	<p>自他の気づきを育むこと、それを活動の中で交流させること。</p> <p>対面で行う学校教育活動の中でも関わりを最も求める活動の一つであることにこだわって授業を展開する。</p>

						<p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・ねらいに応じた行い方などについての話し合いに参加しようとしている。 ・健康・安全に留意している。 		
5月	C.陸上競技	10	<p>(1)次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けること。</p> <p>ア短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡してタイミングを合わせること、長距離走では、ペースを守って走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。</p> <p>イ走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。</p> <p>(2)動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3)陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>	<p>短距離走・リレー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランニングとスプリントの違い ・スタートダッシュ ・中間疾走 <p>・バトンパスやコーナリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件を変えたりレーゲーム <p>走り高跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助走の取り方 ・踏切 ・クリアランス 		<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の各種目において用いられる技術の名称があり、それぞれの技術で動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 <p>○技能</p> <p><u>短距離走・リレー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己に合ったピッチとストライドで速く走ることができる。 ・リレーでは、次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせることができる。 <p><u>走り高跳び</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルな助走から力強い踏み切りに移ることができる。 ・脚と腕のタイミングを合わせて踏み切り、大きなはさみ動作で跳ぶことができる。 <p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとしている。 	<p>「運動あそび」</p> <p>「走・跳の運動」</p> <p>「陸上運動」から、中学校では「陸上競技」に発展する。小学校段階で培った運動の楽しさを発展させ、記録の向上やよりよい運動の仕方に焦点化した授業展開を行う。</p>	<p>「競技」とあることから他者との競走や自己記録の追求を楽しむようにする。</p> <p>それに加え、自らの技能として発揮できない生徒でも他者の運動に対して思考したことを伝えられるような場面設定を行う。</p>
6月	D.水泳 (着衣泳について)	1	<p>水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解できるようにする。</p> <p>水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど、健康安全に気を配ることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳の特性と成り立ち ・技術の名称や行い方 ・安全指導 	<p>水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に</p>	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、着衣泳の際の重要事項などを理解している。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど、健康安全に気を配ることができる。 	<p>※実施状況を踏まえた系統的な指導</p>	

					関する心得については、必ず取り上げること。また、保健分野の応急手当との関連を図ること。			
	E.球技 (ベースボール型)	10	<p>(1)次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>Baseball5でルールに親しみ、</p> <p>・効果的な走塁などによる攻撃</p> <p>・ダブルプレーなど連携した守備</p> <p>これらによって得点を巡る攻防を行う</p> <p>※道具の状況に応じて、屋外でのソフトボールなど種目を変更して実施する。</p>		<p>○知識</p> <p>・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>○技能</p> <p>・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりしている。</p>	<p>「ボールゲーム」「ベースボール型ゲーム」「ボール運動」と発展していき、基本技能やルールを小学校段階で習得するため、中学校では戦術理解に重点を置いた指導を行う。</p>	<p>打つ・捕る・投げるを連携させた技能を身につけ、走者がいるケースの攻撃・守備におけるそれぞれの作戦を考えること</p>
7月 8月	B.器械運動	10	<p>(1)次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うこと。</p> <p>マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。</p> <p>跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。</p> <p>(2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全</p>	<p>マット運動～跳び箱運動へ発展</p> <p>・マット運動(ほん転技群や跳ね起きを中心に扱う)</p> <p>・跳び箱運動(ロールマットやステージからの落ち込みを使ってスモールステップで跳び箱に移行していく)</p>		<p>○知識</p> <p>・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>○技能</p> <p>・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができる。</p> <p>・跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、</p>	<p>「器械・器具を使っている運動遊び」「器械運動」へと発展し、中学校段階では運動を楽しむことから、「挑戦」「達成感」がある活動へと発展させる。</p>	<p>“技ができる喜び”が苦手意識のある生徒でも実感できるように、個人内だけでなく、集団演技やグループ活動などを取り入れ、他者との関係性の中で感じられるよう授業づくりを工夫する。</p>

			に気を配ること。			<p>自己の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。</p>	
9月	G.ダンス	6	<p>(1)次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすること。</p> <p>ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。</p> <p>イ フォークダンスでは、日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。</p> <p>ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ること。</p> <p>(2)表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3)ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>	<p>・現代的なリズムを使った創作的な身体表現</p> <p>・ステップを選択して、構成やアレンジを加えて表現する</p>	<p>○知識</p> <p>・ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しむことや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・ダンスは、様々な文化の影響を受け発展してきたことについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・それぞれのダンスには、表現の仕方に違いがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>○技能</p> <p>・創作ダンス</p> <p>身近な生活や日常動作(スポーツ、働く人など)といった、一番表したい場面や動きを、スローモーションの動きで誇張したり、繰り返ししたり、変化や連続の動きを組み合わせ、表現することができる。</p> <p>・現代的なリズムのダンス</p> <p>軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりずらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>・提示された事例を参考に、自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。</p> <p>・提供されたテーマや表現の仕方から、自己やグループの課題や出来映えを伝えている。</p> <p>・課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>・即興的に体を動かそうとしている。</p>	<p>「表現リズム遊び」「表現運動」から「ダンス」へ発展する。</p> <p>小学校段階では、リズムの感覚を中心に基本技能を培い、リズムやダンスを通して文化に触れることを重視する。それを基に中学校では、自らのアイデアや感じたことを表現に生かすなど培った基礎的な動きを発展させた表現につなげる。</p>	<p>ダンスは、学級集団の関係性などが影響し精神的なブレーキがかかりやすい單元である。</p> <p>それ故に即興性をキーワードに、即興で体を動かし表現するアイスブレイクを行うことで“即興で行ったことに間違いや失敗はない”ということを伝え、動きながら豊富にアイデアを出し合い活動できる環境づくりを最重点に置く。</p>

10月11月	E.球技(ゴール型)	11	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。</p> <p>ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作技能を高める運動 ・空間を作る、空間に走り込むなどの動きを抽出したゲーム 	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、言ったり書き出したりしている。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュート、マークされていない味方にパス、得点しやすい空間にいる味方にパス、ボールをキープできるなどのボール操作ができる。 ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・ボールを持っている相手をマークすることができる。 <p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ・練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 	<p>「ボールゲーム」「ゴール型ゲーム」「ボール運動」から発展し、中学校では「ゴール型球技」として扱う。</p> <p>小学校段階では、基本技能や名称だけでなく、ボール運動の楽しさを味わい、ゲームで役割を果たす達成感を味わったり勝敗を後世に受け止めるフェアプレイの精神を身につける。</p> <p>中学校段階では、連携した動きによって空間を作る・埋めるなどの攻防ができるようになる。</p>	<p>連携した動きと、流動的に現れては消える空間を主課題とし、空間を見つけること、そこに走り込むこと、空間を作り出したり相手の空間を埋めたりする動きができることを身につけさせる。</p>
11月12月	F.武道(柔道)	10	<p>(1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開すること。</p> <p>ア 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすること。</p> <p>(2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたこ</p>	<p>柔道授業にあたってオリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所作(道着の着方、左座右起、黙想など) ・基本動作(回転運動、受け身) ・立ち技による攻防(支え釣り込み足、大腰) 	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすることができる。 <p>○思考・判断・表現</p>	<p>中学校から武道が必修になるため、小学校では体づくり運動や運動遊びの一環として、簡単な武道的な動きを取り入れることもできる。</p> <p>高校への接続とし</p>	<p>安全指導を第一優先に行い、到達度に応じて立ち技の攻防などに学習を深めていく。</p>

			<p>とを他者に伝えること。</p> <p>(3) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。</p>			<p>・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>・提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。</p> <p>・用具等の準備や後片付け、審判などの分担した役割を果たそうとしている。</p> <p>・禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。</p>	<p>では、中学校段階での基本動作の習得が求められる。</p>	
12月1月	E.球技(ネット型)	11	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについて話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。</p>	空いた場所を巡る「落とす」ゲーム		<p>○知識</p> <p>・球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>○技能</p> <p>・相手側のコートに空いた場所にボールを返すことができる。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p>		空いた場所に落とすことのできる攻撃が十分に身につく、ゲームが展開できるとそれを防ぐ守備の重要性に気付くことができ攻防が成立するため、特定の技能の習得ではなく空いた場所を巡る攻防を主課題に扱う。
2月3月	カーリング	7	<p>自然との関わりの深いスキー、スケートや水辺活動などの指導については、学校や地域の実態に応じて積極的に取り組むことに留意するものとする。</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>デリバリー、スweepについて</p> <p>実態に応じたゲーム</p>		<p>○知識</p> <p>・カーリングのルールや、スweepによってストーンをコントロールする方法、授業で学習した作戦などについて、ゲームの中で発言することができる。</p> <p>○技能</p> <p>・ストーンの置く位置(強弱)をコントロールすることができる。</p> <p>・スweepによって、ストーンをコントロールすることができる。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>・ゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイ</p>	<p>学習指導要領に明記されている種目ではないが、市内市内でも高学年からカーリング授業を行う学校が増え、高校まで授業で行われている。</p> <p>中学校段階では競技のルールに親しむことを通して、</p>	<p>ゴルフなどと同様のターゲット型球技かつ、集団球技であることが特筆すべき競技特性で、話し合いで局面を解決していくことを重点とする。</p>

						<p>などのよい取組を見付け,理由を添えて他者に伝えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や仲間がプレイする場面で,ストーンの置く位置について,状況に合わせた選択をしたり伝えたりしている。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーリングに積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして,フェアなプレイを守ろうとしている。 	<p>ターゲット型球技であるカーリングの魅力や種目特性を味わえるようにする。</p>	
1 学期	保健編3章:傷害の防止	10	<p>傷害の防止について,課題を発見し,その解決を目指した活動を通して,次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア傷害の防止について理解を深めるとともに,応急手当をすること。</p> <p>(ア)交通事故や自然災害などによる傷害は,人的要因や環境要因などが関わって発生すること。</p> <p>(イ)交通事故などによる傷害の多くは,安全な行動,環境の改善によって防止できること。</p> <p>(ウ)自然災害による傷害は,災害発生時だけでなく,二次災害によっても生じること。また,自然災害による傷害の多くは,災害に備えておくこと,安全に避難することによって防止できること。</p> <p>(エ)応急手当を適切に行うことによって,傷害の悪化を防止することができること。また,心肺蘇生法などを行うこと。</p> <p>イ傷害の防止について,危険の予測やその回避の方法を考え,それらを表現すること。</p>	<p>①傷害の発生要因と防止</p> <p>②交通事故の要因と傷害の防止</p> <p>③犯罪被害の防止</p> <p>④自然災害による傷害の防止</p> <p>⑤応急手当の基本</p> <p>⑥心肺蘇生法</p>		<p>○知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や自然災害などによる傷害は,人的要因や環境要因などが関わって発生することを理解している。 ・交通事故などによる傷害の多くは,安全な行動,環境の改善によって防止できることを理解している。 ・自然災害による傷害は,災害発生時だけでなく,二次災害によっても生じること。また,自然災害による傷害の多くは,災害に備えておくこと,安全に避難することによって防止できることを理解している。 ・応急手当を適切に行うことによって,傷害の悪化を防止することができることを理解しているとともに,心肺蘇生法などの技能を身に付けている。 <p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷害の防止について,危険の予測やその回避の方法を考えているとともに,それらを表現している。 <p>○主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。 	<p>小学校段階では,予防や集団生活における危険予知などに重点が置かれ,中学校段階では具体的な応急手当や事故の原因分析などに学習を深める。</p>	<p>本単元は学校事故予防に大いに意義があるが,実感が伴わないと知識が意識や行動に伝播しないため,生活や実技などを絡めながら指導したい。</p>
2 学期	保健編4章:健康な生活と疾病の予防②	9	<p>健康な生活と疾病の予防について,課題を発見し,その解決を目指した活動を通して,次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。</p> <p>(ア)健康は,主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また,疾病は,主体の要因と環境の要因が関わり合って発生すること。</p> <p>(イ)健康の保持増進には,年齢,生活環境等に応じた運動,食事,休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。</p>	<p>①生活習慣病の予防</p> <p>②がんの予防</p> <p>③喫煙と健康</p> <p>④飲酒と健康</p> <p>⑤薬物乱用と健康</p> <p>⑥喫煙,飲酒,薬物乱用</p>		<p>○知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病は,日常生活習慣が要因となって起こる疾病であり,適切な対策を講ずることにより予防できること,また,生活習慣病を予防するには,適度な運動を定期的に行うこと,毎日の食事における量や頻度,栄養素のバランスを整えること,喫煙や過度の飲酒をしないこと,口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることについて,言ったり書き出したりしている。 	<p>小学校段階では,風邪の予防や生活習慣を身につけることなど基本的な内容を学び,中学校段階では科学的かつ社会的な学びを深めていく。</p>	<p>生涯を通じた健康は,知識と行動がつながることで自分だけでなく家族などの他者をリスクから守ることができる。中学生が現時点で実感ができる。</p>

		<p>(ウ) 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。</p> <p>(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。</p> <p>イ健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。</p>		<p>・がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること、また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・喫煙については、たばこの煙の中にはニコチン、タール及び一酸化炭素などの有害物質が含まれていること、それらの作用により、毛細血管の収縮、心臓への負担、運動能力の低下など様々な急性影響が現れること、また、常習的な喫煙により、がんや心臓病など様々な疾病を起こしやすくなることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・飲酒については、酒の主成分のエチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力、自制力、運動機能を低下させたり、事故などを起こしたりすること、急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあること、また、常習的な飲酒により、肝臓病や脳の疾病など様々な疾病を起こしやすくなることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・薬物乱用については、覚醒剤や大麻を取り上げ、摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、薬物の連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>・健康な生活と疾病の予防における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。</p> <p>・生活習慣病及びがんの予防や、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、習得した知識を自他の生活と比較したり、活用したりして、疾病等にかかるリスクを軽減し健康の保持増進をする方法を選択している。</p> <p>・健康な生活と疾病の予防について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を</p>	<p>い内容ながらも、成人世代の実感や未成年非行行為の現況など、可能な限り実態を伝えていく必要があると感じる。</p>
--	--	--	--	---	---

						立てて伝え合っている。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・健康な生活と疾病の予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。		
3 学 期	H.体育理論	3	<p>運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解すること。</p> <p>(ア)運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。</p> <p>(イ)運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があること。</p> <p>(ウ)運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があること。</p> <p>イ運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。</p> <p>ウ運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組むこと。</p>	<p>体育編第2章 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方</p> <p>1.運動やスポーツの効果 2.運動やスポーツの学び方 3.運動やスポーツの安全な行い方</p>		<p>○知識・技能 ・運動やスポーツは、体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果およびルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることを理解している。</p> <p>・運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があることを理解している。</p> <p>・運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを理解している。</p> <p>○思考・判断・表現 ・運動やスポーツが心身や社会性におよぼす効果について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。</p> <p>・運動やスポーツの学び方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。</p> <p>・安全な運動やスポーツの行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習に積極的に取り組もうとしている。</p>	<p>理論的な学習は小学校において明示的に扱われていない。</p> <p>中学校・高校から運動の特性や技能の向上に関する理論、健康の保持増進に関する理論などを学習し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現できる人材の育成を図る。</p>	<p>理論と実践の往還には、どちらも経験値が必要である。両輪が回るよう教科経営していくことが重要である。</p>

保健体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力等)

(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

3学年 目標

[体育分野]

(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

[保健分野]

(1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

(3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

指導時期	単元名・教材名	配当 時数	教材目標	学習活動	学習指導要領 との対応	評価規準	小学校との関連	重点
4月	体づくり運動	10	<p>【知識】 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと。 ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うこと。 イ 実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとする</p>	<p>体ほぐしの運動 ○グループワークによる他者との対話 ・道具との対話 ・自分との対話 ・集団での対話(トラストフォール)</p> <p>体の動きを高める運動 ・トレーニング計画</p>	A	<p>【知識】 ・定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・運動を安全に行うには、関節への負荷がかかりすぎないようにすることや軽い運動から始めるなど、徐々に筋肉を温めてから行うことについて、言ったり書き出したりしている。 ・運動を計画して行う際は、どのようなねらいをもつ運動か、偏りがいないか、自分に合っているかなどの運動の原則があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることについて、言ったり書き出したりしている。 ※「体づくり運動」の体ほぐしの運動は、技能の習得・向上をねらいとするものでないこと、実生活に生かす運動の計画を立てることが主な目的となることから、「技能」の評価規準は設定していない。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>	<p>系統性の確保 小学校では基礎的な体力や運動能力を育成することを目的としており、中学校ではそれを発展させ、具体的な運動技能や健康保持増進の実践力を養う。</p> <p>体育と保健との関連 中学校では保健分野との関連性が強調され、健康管理や疾病予防と</p>	<p>自他の気づきを育むこと、それを活動の中で交流させること。 対面で行う学校教育活動の中でも関わりを最も求める活動の一つであることにこだわって授業を展開する。</p>

			<p>などや、健康・安全を確保すること。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。 ・健康や安全を確保するために、体力や体調に応じた運動の計画等について振り返っている。 ・課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 ・体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともに体づくり運動を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ・体づくり運動の学習成果を踏まえて、実生活で継続しやすい運動例や運動の組合せの例を見付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。 ・一人一人に応じた動きなどの違いを大切にしようとしている。 ・自己や仲間の課題解決に向けた話合いに貢献しようとしている。 ・健康・安全を確保している。 	<p>いった内容が体づくり運動と結び付けられている。</p>	
5月	陸上競技	12	<p>【知識・技能】</p> <p>次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。</p> <p>ア 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分高めること、長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。</p> <p>イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶこと。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>短距離走</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランニングからスプリントへ ・形を変えたスプリント ・スタートダッシュ ・中間疾走 ・タイム計測 <p>リレー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バトンパス ・走順を考える <p>走り高跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はさみ跳び ・助走経路の取り方 ・踏み切り ・空中姿勢(クリアランス) 	C	<p>【知識・技能】</p> <p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・技術と関連させた運動や練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出ししたりしている。 ・自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 <p>○技能</p> <p>短距離走・リレー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートダッシュでは地面を力強くキックして、徐々に上体を起こしていき加速することができる。 ・後半でスピードが著しく低下しないよう、カミのないリズムカルな動きで走ることができる。 ・リレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加速して、スピードを十分に高めることができる。 <p>長距離走</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルに腕を振り、カミのないフォームで軽快に走ることができる。 ・呼吸を楽にしたり、走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れて走ることができる。 ・自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。 <p>ハードル走</p>	<p>「運動あそび」「走・跳の運動」「陸上運動」から、中学校では「陸上競技」に発展する。小学校段階で培った運動の楽しさを発展させ、記録の向上やよりよい運動の仕方に焦点化した授業展開を行う。</p>	<p>「競技」とあることから他者との競走や自己記録の追求を楽しめるようにする。それに加え、自らの技能として発揮できない生徒でも他者の運動に対して思考したことを伝えられるような場面設定を行う。</p>

						<ul style="list-style-type: none"> ・スタートダッシュから 1 台目のハードルを勢いよく走り越すことができる。 ・遠くから踏み切り, 振り上げ脚をまっすぐに振り上げ, ハードルを低く走り越すことができる。 ・インターバルでは, 3 又は 5 歩のリズムを最後のハードルまで維持して走ることができる。 <p>走り高跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルな助走から真上に伸び上がるように踏み切り, はさみ跳びや背面跳びなどの空間動作で跳ぶことができる。 ・背面跳びでは踏み切り前の 3~5 歩で弧を描くように走り, 体を内側に倒す姿勢を取るようして踏み切りに移ることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択した運動について, 合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して, 成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について, 自己の考えを伝えている。 ・選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。 ・健康や安全を確保するために, 体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で, よりよいマナーや行為について, 自己の活動を振り返っている。 ・体力や技能の程度, 性別等の違いに配慮して, 仲間とともに陸上競技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ・陸上競技の学習成果を踏まえて, 自己に適した「する, みる, 支える, 知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・勝敗などを冷静に受け止め, ルールやマナーを大切にしようとしている。 ・仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保している。 		
6月	球技 ベースボール型	9	<p>【知識・技能】</p> <p>次の運動について, 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい, 技術の名称や行い方, 体力の高め方, 運動観察の方法などを理解するとともに, 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>ベースボール型では, 安定したバット操作と走塁での攻撃, ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技能 ・バット操作 ボールにコンタクトする ・打球を捕球, 送球する ・場面を限定したり, ルールを整えたりしたゲーム 	E	<p>【知識・技能】</p> <p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術, 作戦には名称があり, それらを身に付けるためのポイントがあることについて, 学習した具体例を挙げている。 ・戦術や作戦に応じて, 技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて, 言ったり書き 	<p>「ボールゲーム」</p> <p>「ベースボール型ゲーム」「ボール運動」と発展していき, 基本技能やルールを小学校段</p>	<p>打つ・捕る・投げるを連携させた技能を身につけ, 走者がいるケースの攻撃・守備にお</p>

		<p>と。</p> <p>【思考・判断・表現】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力, 人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事などや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>Baseball5でルールに親しみ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な走塁などによる攻撃 ・ダブルプレーなど連携した守備 <p>これらによって得点を巡る攻防を行う</p> <p>※道具の状況に応じて、屋外でのソフトボールなど種目を変更して実施する。</p>	<p>出したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。 ・練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。 <p>○技能</p> <p>(安定したバット操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。 ・タイミングを合わせてボールを捉えることができる。 ・ねらった方向にボールを打ち返すことができる。 <p>(走塁)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピードを落とさずに円を描くように塁間を走ることができる。 ・打球や守備の状況に応じた塁の回り方で、塁を進んだり戻ったりすることができる。 <p>(ボール操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールを捕ることができる。 ・ねらった方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投げるができる。 ・仲間の送球に対して塁上でタイミングよくボールを受けたり、中継したりすることができる。 <p>(連携した守備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・味方からの送球を受けるために、走者の進む先の塁に動くことができる。 ・打球や走者の位置に応じて、中継プレイに備える動きをすることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。 ・作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 	<p>階で習得するため、中学校では戦術理解に重点を置いた指導を行う。</p> <p>けるそれぞれの作戦を考えること。</p>
--	--	--	---	--	--

						<ul style="list-style-type: none"> ・作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。 		
7月 8月	器械運動	10	<p>【知識・技能】 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること。</p> <p>マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。</p> <p>跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。</p> <p>【思考・判断・表現】 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保すること。</p>	<p>【マット運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題となる技能の確認 ・腕支持感覚の確認 ・腕支持技の挑戦 ・技の組み立て ・連続技発表会 <p>【跳び箱運動】 関連技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前方倒立回転跳び ・前方屈腕倒立回転跳び ・かかえ込み跳び 	B	<p>【知識・技能】</p> <p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあり、同じ系統の技には共通性があることについて、学習した具体例を挙げている。 ・自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察と他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・技と関連させた補助運動や部分練習を取り入れることにより、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。 <p>○技能</p> <p>マット運動</p> <p>(回転系)</p> <p>《接転技群(背中をマットに接して回転する)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体をマットに順々に接触させて回転するための動き方、回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。 ・開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。 ・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。 <p>《ほん転技群(手や足の支えて回転する)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身を支えたり、突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくなるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。 ・開始姿勢や終末姿勢、支持の仕方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。 ・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。 <p>(巧技系)</p> <p>《平均立ち技群(バランスをとりながら静止する)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元させるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて静止することができる。 ・姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。 ・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで静止することができる。 <p>跳び箱運動</p> <p>(繰り返し系)</p>		

						<p>《切り返し跳びグループ(跳び箱上に支持して回転方向を切り替えて跳び越す)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み切りから上体を前方に振り込みながら着手する動き方,突き放しによって直立体勢に戻して着地するための動き方で,基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ・着手位置,姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。 ・学習した基本的な技を発展させて,一連の動きで跳び越すことができる。 <p>〈回転系〉</p> <p>《回転跳びグループ(跳び箱上を回転しながら跳び越す)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着手後も前方に回転するための勢いを生み出す踏み切りの動き方,突き放しによって空中に飛び出して着地するための動き方で,基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ・着手位置,姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。 ・学習した基本的な技を発展させて,一連の動きで跳び越すことができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択した技の行い方や技の組合せ方について,合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して,成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について,自己の考えを伝えている。 ・仲間やグループで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて自己の活動を振り返っている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・自己の状況にかかわらず,互いに讃え合おうとしている。 ・仲間に課題を伝え合ったり補助し合ったりして,互いに助け合い教え合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保している。 		
9月 10月	ダンス	8	<p>【知識・技能】</p> <p>次の運動について,感じを込めて踊ったり,みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい,ダンスの名称や用語,踊りの特徴と表現の仕方,交流や発表の仕方,運動観察の方法,体力の高め方などを理解するとともに,イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすること。</p> <p>現代的なリズムのダンスでは,リズムの特徴を捉え,変化とまとまりを付けて,リズムに乗って全身で踊ること。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的なリズムを使った創作的な身体表現 ・ステップを選択して,構成やアレンジを加えて表現する。 	G	<p>【知識・技能】</p> <p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスには,身体運動や作品創作に用いられる名称や用語があることについて,学習した具体例を挙げている。 ・それぞれの踊りには,その踊りの特徴と表現の仕方があることについて,学習した具体例を挙げている。 ・それぞれのダンスの交流や発表の仕方には,簡単な作品の見せ合いや発表会などがあること,見る人も拍手をしたりリズムをとるなどしたりして交流し合う方法がある 	<p>「表現リズム遊び」「表現運動」から「ダンス」へ発展する。</p> <p>小学校段階では,リズムの感覚を中心に基本技能を培い,リズムやダン</p>	<p>ダンスは,学級集団の関係性などが影響し精神的なブレーキがかかりやすい单元である。</p> <p>それ故に即興</p>

		<p>表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力,人間性等】</p> <p>ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること,作品や発表などの話合いに貢献しようとする,一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや,健康・安全を確保すること。</p>		<p>ことについて,学習した具体例を挙げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の動きや仲間の動き方を分析するには,自己観察や他者観察などの方法があることについて,言ったり書き出したりしている。 ・いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズムカルな全身運動をすることで,結果として体力を高めることができることについて,言ったり書き出したりしている。 <p>○技能</p> <p>[現代的なリズムのダンス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なリズムの取り方や動きで,音楽のリズムに同調したり,体幹部を中心としたシンプルに弾む動きをしたりして自由に踊ることができる。 ・軽快なロックでは,全身でビートに合わせて弾んだり,ビートのきいたヒップホップでは膝の上下に合わせて腕を動かしたりストップするようにしたりして踊ることができる。 ・リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて,動きに変化を付けて踊ることができる。 ・リズムや音楽に合わせて,独自のリズムパターンや動きの連続や群の構成でまとまりを付けて踊ることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのダンスに応じて,表したいテーマにふさわしいイメージや,踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。 ・選択した踊りの特徴に合わせて,よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して,成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ・健康や安全を確保するために,体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ・作品創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で,合意形成するための関わり方を見付け,仲間に伝えている。 ・体力の程度や性別等の違いに配慮して,仲間とともにダンスを楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ・ダンスの学習成果を踏まえて,自己に適した「する,みる,支える,知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている。 ・仲間に課題を伝え合ったり教え合ったりして,互いに助け合い教え合おうとしている。 ・作品創作などについての話合いに貢献しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた表現や交流,発表の仕方などを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保している。 	<p>スを通して文化に触れることを重視する。それを基に中学校では,自らのアイデアや感じたことを表現に生かすなど培った基礎的な動きを発展させた表現につなげる。</p>	<p>性をキーワードに,即興で体を動かし表現するアイスブレイクを行うことで“即興で行ったことに間違いや失敗はない”ということを伝え,動きながら豊かにアイデアを出し合い活動できる環境づくりを重点に置く。</p>
--	--	---	--	--	--	--

<p>1 1 月</p>	<p>球技 ゴール型</p>	<p>10</p>	<p>【知識・技能】 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 【思考・判断・表現】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>フットサル ・基本的なボール操作(個) ・ドリブルなど基本技能を用いた交流(集団) ・止める、蹴る ・オフザボールの動き ・習得した技能を活かしたゲーム ・ゲームの観察、グループの動きの見取り</p>	<p>E</p>	<p>【知識・技能】 ○知識 ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、言ったり書き出したりしている。 ・ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。 ○技能 ゴール型 (安定したボール操作) ・ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。 ・味方が操作しやすいパスを送ることができる。 ・守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすることができる。 (空間を作り出すなどの動き) ・ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れることができる。 ・パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。 ・ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れることができる。 ・ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることができる。 ・ゴール前の空いている場所をカバーすることができる。 【思考・判断・表現】 ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ・選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。 ・作戦などの話し合いの場面で、合意形成するためのわり方を見付け、仲間に伝えている。 ・球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>「ボールゲーム」「ゴール型ゲーム」「ボール運動」から発展し、中学校では「ゴール型球技」として扱う。 小学校段階では、基本技能や名称だけでなく、ボール運動の楽しさを味わい、ゲームで役割を果たす達成感を味わったり勝敗を公平に受け止めるフェアプレイの精神を身につける。 中学校段階では、連携した動きによって空間を作る・埋めるなどの攻防ができるようになる。</p>	<p>連携した動きと、流動的に現れては消える空間を主課題とし、空間を見つけること、そこに走り込むこと、空間を作り出したり相手の空間を埋めたりする動きができることを身につけさせる。</p>
------------------	--------------------	-----------	---	---	----------	--	---	---

						<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ・作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。 		
1 1 月	ダンス	8	<p>【知識・技能】</p> <p>次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすること。</p> <p>現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的なリズムを使った創作的な身体表現 ・ステップを選択して、構成やアレンジを加えて表現する。 	G	<p>【知識・技能】</p> <p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスには、身体運動や作品創作に用いられる名称や用語があることについて、学習した具体例を挙げている。 ・それぞれの踊りには、その踊りの特徴と表現の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 ・それぞれのダンスの交流や発表の仕方には、簡単な作品の見せ合いや発表会などがあること、見る人も拍手をしたりリズムをとるなどしたりして交流し合う方法があることについて、学習した具体例を挙げている。 ・自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズムカルな全身運動をすることで、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。 <p>○技能</p> <p>[現代的なリズムのダンス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なリズムの取り方や動きで、音楽のリズムに同調したり、体幹部を中心としたシンプルに弾む動きをしたりして自由に踊ることができる。 ・軽快なロックでは、全身でビートに合わせて弾んだり、ビートのきいたヒップホップでは膝の上下に合わせて腕を動かしたりストップするようにしたりして踊ることができる。 ・リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。 ・リズムや音楽に合わせて、独自のリズムパターンや動きの連続や群の構成でまとまりを付けて踊ることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのダンスに応じて、表したいテーマにふさわしいイメージや、踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。 ・選択した踊りの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ・作品創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で、合 	<p>「表現リズム遊び」「表現運動」から「ダンス」へ発展する。</p> <p>小学校段階では、リズムの感覚を中心に基本技能を培い、リズムやダンスを通して文化に触れることを重視する。それを基に中学校では、自らのアイデアや感じたことを表現に生かすなど培った基礎的な動きを発展させた表現につなげる。</p>	<p>ダンスは、学級集団の関係性などが影響し精神的なブレーキがかかりやすい單元である。</p> <p>それ故に即興性をキーワードに、即興で体を動かし表現するアイスブレイクを行うことで“即興で行ったことに間違いや失敗はない”ということを伝え、動きながら豊かにアイデアを出し合い活動できる環境づくりを最重点に置く。</p>

						<p>意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともにダンスを楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ・ダンスの学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている。 ・仲間に課題を伝え合ったり教え合ったりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ・作品創作などについての話合いに貢献しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた表現や交流、発表の仕方などを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保している。 	
12月1月	球技 ネット型	12	<p>【知識・技能】</p> <p>次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>バレーボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人技能 パス、スパイクヒット ・ペアで パスからスパイクまで ・チームで サーブレシーブからスパイクまで ・習得した技能を活かしたゲーム ・ゲームの観察、グループの動きの見取り <p>※自分たちのゲームを動画で撮影。自己やチームの成果や課題を見つける。</p>	E	<p>【知識・技能】</p> <p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、言ったり書き出したりしている。 ・ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。 ・練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。 <p>○技能</p> <p>ネット型</p> <p>(役割に応じたボール操作や安定した用具の操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスでは、ボールをねらった場所に打つことができる。 ・ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。 ・攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。 ・ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 ・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ・ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。 <p>(連携した動き)</p>	<p>空いた場所に落とすことのできる攻撃が十分に身につく、ゲームが展開できるとそれを防ぐ守備の重要性に気付くことができ攻防が成立するため、特定の技能の習得ではなく空いた場所を巡る攻防を主課題に扱う。</p>

						<ul style="list-style-type: none"> ・ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。 ・連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ・選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。 ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。 ・作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ・作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。 	
2月 3月	球技 ネット型	10	<p>【知識・技能】</p> <p>次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話合いに貢献しよう</p>	<p>【卓球】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドライブ ・ツッツキ ・スマッシュ・ブロック ・サーブ ・ゲーム <p>【バドミントン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリア ・ドロップ、ヘアピン ・サーブ ・ゲーム(シングルス・ダブルス) 	E	<p>【知識・技能】</p> <p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、言ったり書き出したりしている。 <p>○技能</p> <p>ネット型</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを相手側のコート上の空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。 ・ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 ・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手 	空いた場所に落とすことのできる攻撃が十分に身につく、ゲームが展開できるとそれを防ぐ守備の重要性に気付くことができ攻防が成立するため、特定の技能の習得ではなく空いた場所を巡る攻防を主課題に扱

			とすること, 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする, 互いに助け合い教え合おうとすることなどや, 健康・安全を確保すること。		側のコートに打ち込むことができる。 【思考・判断・表現】 ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について, 自己の考えを伝えている。 ・選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。 ・健康や安全を確保するために, 体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で, よりよいマナーや行為について, 自己の活動を振り返っている。 ・チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて, 自己の活動を振り返っている。 ・作戦などの話合いの場面で, 合意形成するための関わり方を見付け, 仲間に伝えている。 ・体力や技能の程度, 性別等の違いに配慮して, 仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ・作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして, 互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。		う。
1 学期	保健分野 【保健編 5章】 健康な生活と病気の予防 ③	2	・感染症の起こり方とその予防について理解する。 ・感染症予防の対策と回復について考える。	1 感染症とその予防	【知識・技能】 ・感染症は, 環境の条件や主体の条件が複雑に関係する中で, 病原体が体の中に侵入して起こることを理解している。 ・感染症を予防するには, 感染源, 感染経路, 体の抵抗力のそれぞれについて対策を立てることが有効であることを理解している。 ・感染症にかかった場合, 適切な治療を受けることが重要であることを, 病気の回復のみでなく, 感染拡大の防止の観点においても理解している。 【思考・判断・表現】 ・感染した(しているかもしれない)ときにどう行動すべきかや, 抵抗力を高めるためにできることについて考え, 意見を出し合っている。		
		2	・性感染症とその予防について理解する。 ・性感染症の予防について考える。	2 性感染症とその予防／エイズ	【知識・技能】 ・さまざまな性感染症, HIV 感染・エイズについて, 症状や特徴を理解している。 ・性感染症を予防するには, 性的接触をしないことや, コンドームを正しく使うことが有効であること, 感染の不安		

						などがあるときには早期に検査・治療を受けることが大切であることを理解している。		
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の健康を守るために、地域でどんな活動が行われているかについて理解する。 ・保健機関の役割を理解し、利用できるようにする。 	3 健康を守る社会の取り組み		【知識・技能】 ・人々の命や健康を守るために、さまざまな社会的活動が行われていることを理解している。 ・健康を保持増進し、病気を予防するためには、保健所・保健センターなどの保健機関を必要に応じて適切に利用することが大切であることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・自分が住んでいる地域の保健所、保健センターについて調べたり、利用について考えたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・保健機関の役割などに関心を持ち、自分や家の人の健康と関連させて、その利用について考えようとしている。		
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の役割と利用の仕方、医薬品の作用と正しい使い方を理解する。 ・医療機関の利用の仕方や医薬品の正しい使い方について考える。 	4 医療機関の利用と医薬品の使用		【知識・技能】 ・医療機関について知るとともに、医療機関を必要に応じて適切に利用することが大切であることを理解している。 ・医薬品には主作用と副作用があること、使用方法を守り正しく使用する必要があることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・事例を基に、医薬品の使い方について考えたり話し合ったりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・医薬品の使い方に関心を持ち、適切に使用しようとしている。		
2 学期	保健分野 【保健編 6章】 健康と環境	1	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化に対して体はどのように対応するか理解する。 ・適応能力には限界があることを身近な事例を通して考える。 	1 環境の変化と適応能力		【知識・技能】 ・人間には、環境の変化に応じて諸器官を働かせてその変化に対応する能力があることを理解している。 ・適応能力には限界があり、それを超えると、体にさまざまな支障をきたすことがあることを理解している。 ・事例を通して、気象情報などの情報の適切な利用が有効であることを理解している。		
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に適した温度、湿度、明るさなどの環境の範囲について理解する。 ・室内の環境の調節の仕方について考える。 	2 活動に適した環境		【知識・技能】 ・暑さ・寒さの感じ方には、気温、湿度、気流が関係しており、気温には人間の活動にとって至適な範囲があることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・寒さ・暑さを調節するための工夫と注意点を考えているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習や作業をするときは、それに応じた適度な明るさが必要であることを理解するとともに、実践への意欲を持っている。		
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素や一酸化炭素の体への影響とそれらの管理方法について理解する。 ・室内の空気を衛生的に保つ必要性や方法について考え 	3 室内の空気の条件		【知識・技能】 ・二酸化炭素濃度は、室内の空気の汚れの指標となることを理解している。		

			る。			<ul style="list-style-type: none"> ・一酸化炭素は、吸入すると一酸化炭素中毒を起こすこと、そのため基準が決められていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・室内の空気の条件について課題を見つけるとともに、課題などを通して計画的な換気の必要性を理解し、暖房器具の取り扱いなどについて考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで室内の換気をしようとしている。 		
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・水の役割と飲料水の確保について理解する。 ・安全な水について考える。 	4 水の役割と飲料水の確保		<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・水は、人間の生命維持や健康な生活を送るうえで重要な役割を果たしていることについて理解している。 ・飲料水の水質には一定の基準が設けられており、水道施設により衛生的な水を確保していることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・水と私たちの生活についての課題を見つけ、進んでその解決方法を探ろうとしている。 		
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・生活排水を衛生的に処理する必要があることを理解する。 ・水を汚染しないためにできることについて考える。 	5 生活排水の処理		<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・生活排水は、衛生的に処理されなければならないことを理解している。 【思考・判断・表現】 ・生活排水の処理を巡るさまざまな問題があることを理解するとともに、水の汚染を防ぐための工夫や対策を考えたり話し合ったりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・家庭から出る生活排水がどのように処理されているかについて関心を持って学習に取り組もうとしている。 		
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみを衛生的に処理する必要があることを理解する。 ・ごみの問題を解決するためにできることについて考える。 	6 ごみの処理		<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断・表現】 ・ごみの処理を巡るさまざまな問題があることを理解するとともに、ごみの問題の解決のための工夫や対策を考えたり話し合ったりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生活に伴って生じるごみはどのように処理されているかについて関心を持って学習に取り組もうとしている。 		
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・環境汚染が健康に及ぼす影響について理解する。 ・環境汚染を防ぐための取り組みについて考える。 	7 環境の汚染と保全		<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・環境を汚染する物質は、さまざまな経路で私たちの体に入り、私たちの健康にさまざまな被害をもたらすことを理解している。 【思考・判断・表現】 ・環境を汚染するものやそれによる健康への影響について考え、課題意識を持っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近な環境に関心を持ち、改善しようとしている。 		
3 学期	保健分野 【体育編 3章】 文化としてのスポーツ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・現代生活におけるスポーツの意義について理解する。 ・スポーツの意義を自分の生活と結び付けて考える。 	1 スポーツの文化的意義		<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 スポーツは、現代生活において誰もが楽しめるように、その関わり方を工夫してきた文化であることを理解している。 【思考・判断・表現】 		

						現代生活におけるスポーツの意義や役割について考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツの意義と自分の生活を結び付けて考えようとしている。		
	1	・国際的なスポーツ大会にはどんな役割があるかについて理解する。 ・諸外国の人と相互理解を深める活動について考える。	2 国際的なスポーツ大会とその役割			【知識・技能】 スポーツにはさまざまな国際大会があり、それらは国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること、それらの果たす役割が大きくなってきていることを理解している。 【思考・判断・表現】 国際的なスポーツ大会が身近で行われた際に、どんな関わり方ができるかについて考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 国際的なスポーツ大会などに関心を持ち、その意義や役割について考えようとしている。		
	1	・スポーツが持つ、人々を結び付ける働きについて理解する。 ・人々を結び付けるスポーツの働きについて、事例を通して考える。	3 人々を結び付けるスポーツ			【知識・技能】 スポーツには、人々を結び付ける働きがあること、さまざまな違いを超える可能性があることを理解している。 【思考・判断・表現】 さまざまな違いを超えて交流するスポーツについて、事例を通して考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツが人々を結び付けた例を思い出したり、調べたりするとともに、自分の経験を通して考えようとしている。		